

## カザフスタン共和国東カザフスタン州より感謝状が贈呈される



大学院医歯薬学総合研究科  
山下俊一 教授



大学院医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設の山下俊一教授は、「セミパラチンスク地域医療改善計画」の成功に対し、カザフスタン共和国東カザフスタン州副知事から感謝状が贈られました。

同国セミパラチンスク核実験場は、旧ソ連時代1949年から89年までに500回近い核実験が行われた世界最大の核汚染地域です。1999年9月、国連によるセミパラチンスク支援東京国際会議が外務省主導で開催され、その決議を受けて国際協力事業団（現在の国際協力機構。JICA）セミパラチンスク地域医療改善計画がスタートしました。当初2000年7月からの3年計画でしたが、高い中間評価を受け、最終的には5年間の技術協力となり2005年6月に無事終了しました。

同計画において、僻地巡回検診や各種の技術移転に多くの本学関係者が協力し、JICAと本学が密接に連携し、日本の顔の見える国際貢献が推進されました。その代表の一人として、この度、山下教授に感謝状が贈られたものです。

（医歯薬学総合研究科学術協力課）